

平成28年度 第9回下野市教育委員会定例会議事録

- 1 日 時 平成28年12月15日(木) 午後2時30分から午後4時00分
- 2 場 所 南河内中学校 1階 会議室【出前教育委員会】
- 3 出席委員 委 員 長 永山伸一
職務代理者 三橋明美
委 員 熊田裕子
委 員 石嶋和夫
教 育 長 池澤 勤
- 4 出席職員 教育次長 野澤 等
教育総務課長 坪山 仁
生涯学習文化課長 増 渕 晴 美
スポーツ振興課長 北 條 均
学校教育課指導主事 稲見雄太
学校教育課指導主事 稲葉 亜希恵
教育総務課課長補佐 伊澤仁一
教育総務課主幹 古橋栄一
- 5 傍 聴 人 5名
- 6 議 案
議案第37号 下野市就学支援委員会の判定結果について(第3回答申)
- 7 討 議
「下野市の英語教育の未来について」

<p>永山委員長</p>	<p>あいさつ 議事録署名人の選任 永山委員長及び石嶋委員 議事録の承認について、前回の議事録の確認をお願いします。訂正等があれば発言を求める。(特になし) 議事録はこのとおり承認とする。 議事に入る旨を伝える。 議案第37号「下野市就学支援委員会の判定結果について(第3回答申)」は、資料中に個人情報が含まれていることから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項」の規定により非公開で行うとともに、審議及び議決は教育委員と報告者のみで行いたい。委員の意見をお伺いする。 全委員異議なし。 それでは非公開で行うことに決定する。 出前教育委員会として会場をお借りしているので、教育委員及び報告者は別室へ移動をお願いします。傍聴者及び教育委員会事務局職員はこの場で待機をお願いします。</p> <p>以下、非公開。</p> <p>(別室に移動していた委員が入室する。)</p>
<p>永山委員長</p>	<p>議案第37号については原案どおり決定したため、ここに報告させていただく。 次に討議に移ることを告げる。 今回は「下野市の英語教育の未来について」討議を行う。はじめに、下野市の英語教育の現状等について説明をお願いします。</p>
<p>稲葉指導主事</p>	<p>【説明要旨】</p> <p><国の英語教育の動向について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成32年度から小学校新学習指導要領が全面実施されることを受け、高学年では年間70時間を教科として、中学年では年間35時間を外国語活動として実施する。 ・平成25年にはグローバル化に対応した英語教育改革実施計画が策定され、平成31年度から中学校3年生を対象とした英語4技能(聞く、話す、読む、書く)を測る全国的な学力調査を実施する。 ・英語検定能力については、中学校卒業段階で英検3級以上、高等学校卒業段階で英検準2級又は2級以上を達成した生徒の割合を50%にする指標を設定した。 ・大学入試においても、平成32年度入試から(現在の中学校2年生から)英語4技能による試験の実施を開始する。 <p><市としての現状について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語授業実施時数については、中学校では各学年140時間(週4時間)

の実施、小学校5、6年生は年間35時間、3、4年生は平成25年度から特例校制度を利用し20時間、1、2年生は予備時数から年間10時間をそれぞれ実施している。

- ・現在 ALT は6名、JTE は1名を採用しており、授業だけではなく夏休みの英語イベントや教員の英語力向上を図るための研修を行っている。
- ・市では「自信をもって国際社会で活躍できる児童生徒の育成」～互いの立場を尊重し、自分で考えを表現できる子ども～を英語教育の目標と設定をしており、これを達成するために具体的な方策を練っていく。
- ・中学校2年生を対象とした「とちぎっ子学習状況調査」において、今回の結果は県平均を大きく上回っていた。しかしながら、下野市の傾向を詳細に見ていくと、上位層と下位層との差が大きいことが分かった。
- ・小中学校教員が集まり英語教育推進委員会を年3回開催し、小中学校の接続における系統的な英語指導の研究や交流活動を実施している。

<市の今年度事業について>

- ・指導主事による授業参観を全小中学校において年2回実施している。小学校児童は、外国語活動に興味関心をもって取り組んでおり、教員も教科化へ向けて指導力向上に対する意識が高まりつつある。その一方で、ALT が主導となって授業を進めているケースが多いため、学級担任はT1（ティームティーチングにおける主導的役割を担う教員）として授業を展開していくことに不安を感じているようである。中学校では、「英語の授業は英語で行う」を意識して授業に取り組む教員が増えているが、教員にとって授業における自己表現活動の時間を十分にとることや子どもたちの家庭学習の定着を図らせることが課題となっている。
- ・指導主事による小学校訪問研修を行い、夏休み期間には全小学校で ALT との研修会を実施している。
- ・下野市教育研究所ホームページに「英語のひろば」を開設し、「Shimotsuke English Journal」を掲載することで、授業のアイデア等の情報を発信している。
- ・自主研修として「ゆうがお CAFÉ」を開催しており、ALT を含む教員20名程度が参加している。
- ・ALT と英語に楽しむイベントとしては、小学生向けに「Summer English Fun」を開催しており、今年度は347名の参加があった。しかしながら、小学校低学年と高学年の発達段階に差がみられることから、来年度から再編をしていく予定である。

<今後の英語教育推進について>

- ・子どもたちの英語力向上や教員の指導力向上のため、来年度から2年間で英語教育推進プロジェクト委員会を発足していく。この委員会では、市英語教育の全体構想と市の学習到達目標の設定、小中英語教育におけ

	<p>る小学校1年生から中学校3年生までの学びをつなぐ一貫教育としてのカリキュラム作成（仮称：下野ふるさと未来科）、教職員指導力強化の研修などを行っていく予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度から市内在住の中学生を対象とし、英検3級以上の受験者へ検定料の半額補助を行い、平成32年度には3級取得率45%を目標に進めていく。 ・英語にかかる時数の増加から、来年度に日本人のJTE増員についても要望していく。 ・小学校のカリキュラムでは英語教育として時数を増加することは難しいため、15分間のモジュール学習（10分や15分などの時間を単位として取り組む学習形態）を週3回行っていくことが現実的であることから、教員対象にモジュール学習に関する研修を実施する予定である。
永山委員長	<p>それでは以上の説明を受け、英語教育について委員の皆さんから自由なご意見をお願いしたい。</p>
熊田委員	<p>私は英語が苦手なので、もし小学校の教員だったら、このようなカリキュラムをやれと言われると厳しいだろうと思う。英語に対して苦手意識のある先生もいらっしゃると思うので、研修を丁寧に行っていることは良いことだと思うが、実践例をまとめたマニュアルなどがあれば効果的であると考えられる。JTEの増員について説明があったが、予算上厳しくなった場合はボランティアという形で募集してみるのも良いと思う。</p>
石嶋委員	<p>下野市のようにALTやJTEを雇い、教員をフォローしていることはとても素晴らしいことだと思う。指導主事だけの能力に頼っていく指導には限界があり、財政状況によっては、人件費も真っ先に削られてしまう恐れがあるので、ALTやJTEと一緒に授業を行えるうちに、小学校の担任も共に指導について学んでいくことが重要になってくると思う。もちろん、JTEの増員を検討していただけるのはありがたいことである。今後とも、教員の負担感が大きくなならない形で学んでいけるような環境づくりをしていただきたい。</p>
三橋委員	<p>今回の討議テーマが「下野市の英語教育の未来について」ということで、英語教育におけるALT等の人員不足について私も懸念していたが、稲葉指導主事より増員していただけるという話を聞いて安心したところである。子どもたちの英語力の向上には、聞く力や話す力が重要になってくるので、先生に余裕がある中で授業を行っていかないと、市の掲げる目標達成は厳しくなると思う。財政状況が厳しいことは分かっているが、ぜひALTやJTEの増員に向けて環境整備を進めていただきたい。</p>
池澤教育長	<p>ALTは英語でしゃべっているが、「言葉を教える」という指導力や教育原理などについてもきちんと勉強していく必要がある。また、担任教員の中には、ALTに授業を丸投げしてしまう傾向があるのも現状である。しかしながら、下野市ではALTに丸投げする授業ではなく、担任主体の授業を行い、英語を通して何を勉強するのかを教えていくことが今後の鍵であると思う。</p>

池澤教育長	<p>例えば、「Nice to meet you.」は初めて会った時に使う言葉として用いられるが、この英語をどの場面で使うのかを学ぶ際、デジタル教材を利用して映像を効果的に活用していくことも大切となってくる。このように授業展開をしていくことで生きた英語をリアルタイムで体験でき、感動を与えられると考える。</p> <p>また、下野市の現状を実際に見て聞いて感じないとわからない部分もあると思うので、稲葉指導主事が全小中学校を訪問し、この状況を「Shimotsuke English Journal」で発信したり、「ゆうがお CAFÉ」を開催したりするなど、素晴らしい取組を行っているところである。</p> <p>今後の下野市の英語教育の在り方について考えた時に、ALT の数が少ないという結論が出た際には、きちんとした ALT の増員を考えていきたい。また、授業時間数は変わらないのに内容は増えてきていることから、モジュール形式の短い時間で、普段のように学べる授業を行っていき、そのノウハウをきちんとマニュアル化していきたいと考えている。子どもたちの英語嫌いを増やさないように、楽しい英語を教えていきたい。</p>
永山委員長	<p>大いに期待したいと思う。</p> <p>今の英語教育は、なるべく早いうちに英語に慣れ、英語を耳から入れ、最終的には自分なりの考えを英語で表現できるようになることを目指していると思う。しかしながら、中学校でさえ授業時間が週 4 時間と少ない状況であり、公教育の場での目標達成はかなり難しいのではないかと。慣れるために相当の時間が必要であり、英語圏でない私たち日本人が英語を習得するためには別の視点も必要であると思う。授業の他に英語が上達できる方法があればお聞きしたい。</p> <p>また、語学を勉強していく上では何といたっても語彙力が必要であると思うが、今の日本の英語教育は語彙数が少ないように感じる。英語の 4 技能に加え、例えば子ども達に「6000 語レベルの言葉を覚えてみよう」といったような機会を与えるも効果があるのではないかとと思う。</p>
稲葉指導主事	<p>国では、英語を通して国際的に活躍できる日本人に育成していくことを目指しているのではないかと考えている。あくまでも英語を通してどのような人材を育成していくかということであると思う。もちろん、その中で英語力そのものも必要であると思うがまだ不十分である。授業以外で学ぶ手立てとして、例えば英語環境をつくるために、朝から放課後まで 1 日を通して英語で会話する等、特別な日をつくることも有効ではないかと思う。しかしながら、必要性という面でも乏しい今の状況からすると、英語を話す環境が自発的に整うことは厳しいというのが現状である。</p>
永山委員長 稲葉指導主事	<p>モジュールとはどのようなものを想定しているのか教えていただきたい。</p> <p>モジュール学習は試験的に県外で行っている学校があり、主に昼休みの時間に行っている。例えば、30 分の昼休みのうち 20 分は外で元気に遊び、残りの 10 分は体を動かして、チャンツ（日常的な場面での話し言葉をリズムに乗せて表現するもの）を行うというのを週 3、計 135 時間行っていく</p>

<p>永山委員長</p>	<p>と効果があるのではないかと考えている。</p> <p>知らない単語に出会った時に辞書を引くという習慣を身につけることで、少しずつ語彙を増やしていくことも大切なのではないかと思う。例えば、英語の雑誌や新聞の切り抜きを使い、分からなかった単語を辞書等で調べ、グループみんなで話し合い、どんな内容が書かれているのかを探っていくゲーム形式はどうか。教員の負担を軽くできるとともに、子どもたちはゲーム感覚で語彙力を伸ばしていくことができると思う。語彙力に個人差が出てしまう懸念はあるが、自発的に調べよう、見つけようとする意欲が育っていくのではないか。英語の4技能を総合的に高めていくために、英語の語彙を増やしていくことで、英語を学ぶことに対してさらに興味がわいてくると思う。</p>
<p>稲葉指導主事</p>	<p>今年から改定された英語の教科書を新しく使用することとなり、掲載されている語彙数や英語の分量などが以前より濃くなり、教える内容が増えた。また、教科書の内容に関するテストもあり、教員は限られた時間数で教えなければならないため、教科書を終わらせることに追われてしまうケースが多くなっている。個人的な意見としては、英字新聞や洋画、キング牧師のスピーチ等をリスニングとして使用し、生きた英語を使った授業を行うことが効果的であると考えている。</p>
<p>永山委員長</p>	<p>英語の授業の中だけではなく、先生方が直接管理しない時間でどれだけ力をつけていくかがこれから重要になってくると思う。</p> <p>他に質疑等はあるか。(特になし)</p> <p>話は尽きないが、今後も折にふれ継続的に下野市の英語教育について話し合いを行っていきたいと思うので、ご理解をいただきたい。</p> <p>以上で討議を終了する。</p> <p>次回の臨時教育委員会は12月20日(火)午後3時30分からの予定とする。</p> <p>本日の議事日程は全て終了した旨を告げ、午後4時00分閉会。</p>